特 71
932

日本公證人規則註解

大審院評定官奥山政敬閲
河原田新著

芳新堂藏版

301475-001-6

特71-932

日本公證人規則註解

河原田 新／著

M19.8
BBR-0001

特 71
932

日本公證人規則註解

大審院評定官奥山政敬閲
河原田新著

芳新堂藏版

明治十九年九月十一日内務省許可

登人規則註解

大審院評定官奥山政敬閲

河原田新著

芳新堂藏版

特71
932

公證人規則

司法省

凡例

一本書ハ法律第二號ノ公布ニ係ル公證人規則ニ註解ヲ加ヘタル者ニシテ其目的法律ヲ解セザルノ徒ヲシテ不測ノ損害ヲ蒙ラザラシメント欲スルニ在リ故ニ文章字句ニ於ケル專ラ平易ナル者ヲ用ヒ讀者ヲシテ解シ易カラシム

一佛國公證人規則ノ全文ヲ附記シ讀者ノ參考ニ供セント欲セシモ已ニ司法省ノ出板ニ係ル佛蘭西和蘭「ノテール」規則ト題スル書籍アルヲ以テ單ニ本邦公證人規則ニ恰當スル條章ヲ示スニ止ム

一卷末ニ司法省令甲第二號公證人規則施行條例ヲ附記スルモノハ已ニ公證人タル者ノ遵守スヘキ必要

ノ條件ヲ記定シ又公證人タラント欲スル者ニハ試驗及ヒ公證人願書式等ヲ記定シアルヲ以テ是ヲ附記シテ以テ讀者ノ便ニ供ス

明治十九年

編著者識

日本公證人規則

大審院評定官奥山政敬閲
河原田　新　著

問　公證人規則ヲ置ク目的ハ如何

答　人民契約ノ證據ヲ確實ニシテ訟訟ヲ未前ニ防ク為ヲ以テ其目的トスル

第壹章　總則

問　總則ハ如何

答　總則ハ第三章以下ノ各條ヲ運用スルノ規則ニシテ之ヲ約言セハ本法ノ原則タルモノヲ一所ニ蒐集シタルモノト云フヘシ

第壹條

公證人ハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正ノ證書ヲ作ルヲ以テ職務トス

問　公證人トハ如何ナルモノヲ云フヤ

答　公証人トハ第三章ニ定ムル資格ヲ有シ司法大臣ヨリ任セラレタルモノニシテ第一條ノ職務ヲ行フノ權アル人ヲ云フ

問　公証人ハ司法大臣ノ任免スル所ノモノトセバ官吏ナルヤ

答　本邦ノ公証人ハ官吏ニハアラサルモノヽ如シ何トナレハ公証人ハ代言人ヲ兼帶スルヲ得ヘケレバナリ

問　人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正証書ヲ作ルヲ以テ職務トストアリ然レハ其公正ノ証書ト爲ストナサヽルトハ人民ノ自由ニ任スルモノナリヤ

答　固ヨリ然リ公正ノ証書ト爲スト爲サヽルトハ各人民ノ勝手ニ任カスモノニシテ強テ法律ヨリ命令スルニ非ス然ルニ佛國民法第九百三十一條生存中ノ贈遺ヲ爲ス証書及ヒ第千六八十九條其他婚姻契約書等ハ公証人ヲシテ之ヲ書セシメサレ

ハ契約ノ効力ナキ旨ヲ示セリ是レ佛國公証人規則第一條ニ所謂公正ノ証書ニセサル可ラズト云フモノナリ本法ニ於テハ未タ斯ノ如キ正條ナク他ノ法律規則ニモ亦斯ノ如キ制裁アルヲ見ス故ニ將來民法發布ノ後是等ノ規則ヲ設ケラルヽアルハ期シ得ヘシト雖モ今日ハ全ク人民ノ自由ニ任スルモノナリ

第二條　公証人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正証書又ハ他ノ官吏ノ作ル可キ公正書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之レヲ作リタルトキハ公正証書ノ効ヲ有セス

問　公証人ハ法律命令ニ背キタル云々若シ之ヲ作リタルトキハ公正ノ効ヲ有セストアリ法律命令ニ背キタル証書トハ如何

答　法律命令ニ背キタル証書トハ第一治安ヲ害シ風俗ヲ紊ルカ

如キハ勿論諸規則ノ定規ニ違フタル証書ヲ汎稱シタルモノト解釋スヘシ

問　然レハ明治十年第六十六號布告利息制限法ニ背キタル証書ハ公正証書トナスヲ拒ミ得ヘキヤ

答　本條ニ法律命令トアリテ則チ利息制限法モ法律ナル以上ハ之ニ背キタル証書ハ公正証書トナスヲ拒ムヲ得ヘキモノトス

問　本條ノ定規ニ背キタル時如何ナル制裁アリヤ

答　本條若シ之ヲ作リタルトキハ公正ノ効ヲ有セストアルニヨリ公正ノ効ナキ事ハ則チ本條ニ背キシ制裁ナリ但私ノ証書ノ効力ハ失フノ道理ナキモノトス

問　他ノ官吏ノ作ルヘキ公正証書トハ管轄區域外ニテ作リタル事ヲ云フヤ又ハ他ノ官吏トハ公証人ニアラサル官吏ノ作ルヘキ公正証書ト云フ義ナリヤ

答　我國ニ於テハ未タ官吏ノ作ルヘキ公正証書ノ類ヲ定ムル法律ナキカ如クナレ共彼官有地ヲ借受ケ之レニ建築セシ家屋ヲ賣買抵當トナストキ其地主タル官廳ノ証印ヲ要スルノ制規アリ之レ是等ヲ云フモノナルカ然レ共佛蘭西法律ニ於テ身分証書ヲ作ルハ身分証書ヲ作ルヘキ特別官吏ニ属スト云フカ如キ明白ナルモノニアラズ去リナガラ本邦未タ民法ノ制定アラサレハ身分証書ヲ特ニ掌ルノ官吏ナシ依テ官吏ノ作ルヘキ公証トハ今日ニ於テハ其適例甚タ多カラザルナリ本條ハ佛蘭西公証人規則第六條ニ相當ス

第三條　公証人ノ作リタル公正証書ハ完全ノ証據ニシテ其正本ニヨ

リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スルモノトス但刑事裁判所ニ僞造ノ訴アルトキハ其証書ノ執行ヲ中止スヘシ又民事裁判所ニ僞造ノ申立アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止スルヿヲ得

問　本條ノ主要ハ如何

答　本條ハ公正証書ノ効力ヲ示スモノナリ

問　公正証書トハ如何ナルモノナルヤ

答　公正証書トハ私ノ證書ノ反對ニテ法律ニ定ムル法式ヲ履テ公證人ノ記シタルモノヲ云フ

問　公正證書ハ完全ノ證據ナリトアレハ直ニ執行スルノ力アリヤ否ヤ裁判所ノ命令アルニアラサレハ直ニ執行ノ力ナシ佛蘭西民法第千三百十七條ヲ參看スヘシ

問　公正ノ証書ハ裁判所ノ命令ニ依テ執行シ其執行ハ之ヲ停ムルノ權ナキヲ正則トス然ルニ之ヲ中止スルノ場合アリヤ

答　曰アリ該公正証書ノ贋造ノ訴アリタルトキハ之ヲ中止ス是レハ佛蘭西民法第千三百十九條ニ同主旨ナリ蓋シ之ヲ中止スルハ相當ノ事ナルヘシ

第四條　公証人ハ治安裁判ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受ケタル町村内ニ住居シ其居宅ニ役場ヲ設ケ役場ニ於テ職務ヲ行フ可シ但役場外ニ住居セントスルトキハ管轄始審裁判所ノ認可ヲ受クヘシ

已ムヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限リ役場外ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

問　本條ハ如何ナル主意ナルヤ

答　本條ハ公證人ノ權限ニ關スル受持區則チ管轄ヲ定メタルモ

ノナリ而シテ其管轄區域ハ一治安裁判所管内ヲ以テ區域トス

問　役場外ニ於テ職務ヲ行フヲ禁スルハ何ノ理由ナリヤ

答　役場外ニ於テ職務ヲ行フヲ禁スル理由ハ左ノ如シ

抑管轄區域ヲ定ムル所以ノモノハ公正證書ノ實ヲ得ルニ在リ已ニ囑託人ノ身分其氏名ヲ知リ面識アルヲ必要トスルトハ第廿八條ノ示ス處ニシテ其面識アリ氏名ヲ熟知スルハ受持區域ノ廣汎ナラサルヲ要ス若シ管轄廣汎ナルカ如何ソ囑託人ノ氏名ヲ知リ必ス面識アルヲ期スルヿヲ得ンヤ果シテ然レハ則チ公正證書ノ實ヲ完フスルヲ得ザルヤ知ル可シ是レ管轄ヲ定メ之ヲ遵守セシメ毫モ公證人ヲシテ犯サヽラシムル所以ニシテ又下ニ答フル理由アルカ故ナリ

問　役場外ニテ職務ヲ行フヲ禁シ又ハ止ヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限リ役場外ニテ職務ヲ行フヲ得ルトハ如何

答　役場外ニテ職務ヲ行フハ書類紛亂事ノ漏洩ヲ免レス事ノ漏洩ハ第十七條ノ禁令ニシテ公證人ノ一大義務ニ屬ス是レ役場外ニ於テ職務ヲ行フヿヲ禁スル所以ナリ

又止ヲ得ザル事件ニ付テハ云々トアルハ治罪法豫審判事カ疾病ニ係リ出廷シ能ハサル被告人ノ住所ニ臨ミ尋問スルノ例ト同一ニシテ死ニ垂ントスル病者ノ遺囑証書ヲ作ル場合ノ如キ公証人病床ニ臨ミ之ヲ記スルカ如キ役場外ナリト雖ヒ法律ハ之ヲ公許セサル可ラズ是已ムヲ得サル事件トハ是等ノ場合ヲ云フモノナラン

第五條　各區内公証人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム

第六條　公証人ハ司法大臣ニ隷屬シ控訴院長始審裁判所長ノ監督ヲ

受クルモノトス

問　第五條公証人ノ數ヲ定ムルヲ司法大臣ノ權ニ属セシメタルハ何ノ理由ナリヤ又何ヲ以テ公証人ハ司法大臣ノ隷属ナルヤ且控訴院始審裁判所長三個ノ官吏ニ監督セラルヽノ義務アリヤ

答　公證人ノ多寡ハ地方ノ狀況ニヨリ囑託人ノ便不便ニ關ス玆ヲ以テ其便否ヲ計ルハ行政官タル司法大臣ノ定ムル所ニ任スルハ蓋シ相當ノ事ト謂フヘシ

又公證人ノ司法大臣ニ隷属スルハ恰モ代言人ノ司法大臣ニ隷属シ撿事ノ監督ヲ受クルト一般ニシテ公証人ハ其事務民事ニ關スル公正證書ヲ作ルモノニシテ民事ノ事務ハ司法省ニ属ス故ニ其之ヲ掌ル職權ニ於ケルモ亦司法大臣ニ属スル

ヿ論ナキ事ト思ヘリ佛國裁判所構成中ニハ公証人代書人ヲ以テ其一部ニ置キタリ是ニ依テ之ヲ見ルモ公証人ノ司法大臣ニ隷属スルヿハ看易カルヘシ其控訴院始審裁判所長ノ監督ヲ受クルハ其公正ノ事件控訴院始審裁判所ニ關係スルニ因ル

第七條　公証人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲ニモ職務ヲ行フヘシ但受持區外ニ於テハ何人ノ爲ニモ職務ヲ行フヿヲ得ス若シ之ヲ行ヒタル時ハ公正ノ効ヲ有セス

問　受持區外ノ人ノ爲ニ公正證書ヲ作ルトハ如何ナル場合ナルヤ又受持區外ニ於テハ何人ノ爲ニモ職務ヲ行フヿヲ禁スルハ何ノ理由ニ因ルヤ若シ之ニ背キタルトキハ其制裁如何

答　例ヘハ日本橋區内ノ人ニシテ芝區ニ來リ芝區ノ公証人ニ向

テ公証ヲ依頼スル場合ノ如シ然ルニ其日本橋區ノ人ト芝區ノ人二人ガ深川區ニ於テ取結ヒタル契約證書ノ如キ場合ニ於テハ其公証ハ何レノ公證人ノ受持ニ属スルモノトナスヘキヤノ疑問アリト雖モ受持區域ハ公証人ニ就テ定ムル所ニシテ嘱託人ニ管轄區域ナシ故ニ何レノ公証人ニ嘱託スルモ各自ノ自由ニ任スルモノト解シテ可ナラン

受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ云々トハ受持區外ニ出張シテト云フ事ナリ其ハ假令皇族貴人ノ嘱託アリト云フモ本法ノ禁スル所ナレハ決シテ區外ニ於テ職務ヲ行フヿヲ許サヽルナリ若シ本條ノ定規ニ背キタルニ於テハ公正證書ノ効ナク私證書トナルヘシ本條ハ佛國公證人規則第六條ト同樣ナリ

第八條　公証人ハ理由ナクシテ人民ノ嘱託ヲ拒ムヿヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキ嘱託人ノ求メアレハ其理由ヲ記シテ渡スヘシ

問　公証人ハ如何ナル場合ニテモ之ヲ拒ムヿヲ得サルヤ又拒ミタルキ嘱託人拒ミタル理由書ヲ請フニ於テハ之ヲ渡サヽルヲ得サルヤ

答　公證人ハ第一條ニ依リ之ヲ公証スルヲ以テ職務トス故ニ通常之ヲ拒ムヿヲ得サルヿ論ヲ俟タス然レ共第二條ニ命令アルモノ則チ犯罪ニ渉ル証書又ハ風俗ヲ紊リ治安ヲ害シ道德ニ悖リ法律ニ背キタルモノハ嘱託ヲ拒ムヲ得ルヿヲ拒ムキハ其理由書ヲ渡サヽルヲ得ス之ヲ要スルハ拒ミタル理由ノ當否ヲ証スルノ具タルヲ以テ公証人モ之ヲ渡スハ却テ自已

ノ公明正直ナルヲ証スルモノナリ

第九條　公證人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

問　抗告トハ如何

答　抗告トハ抗辨告訴スルノ義ニテ始審裁判所ヘ訴フル事ヲ云フ併シ職務執行上ニ關シトアレハ職務執行上ニ關係ナキ事ハ抗告スルヲ得ス

第拾條　公証人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作リ其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄始審裁判所及治安裁判所ニ差出スヘシ

前項ノ印鑑ヲ差出サヽル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス

問　役印トハ如何又之ヲ始審治安兩裁判所ニ出スハ何ノ必要ヲ

リヤ

答　役印トハ公証人カ職務上ニ用フル印章ニシテ實印ニアラス之レカ印鑑ヲ裁判所ニ呈出シ置クハ公正証書ノ眞贋ヲ調査スルノ具ニ要スルカ爲メノミ若之レニ背キ印鑑ヲ差出サヽル間ニ職務ヲ行フタルトキハ其証書ノ不正ニ出ルモノアルヤノ恐レアルモノトシ其證書ノ公正證書ノ効ヲ保護スル爲メ此制裁ヲ附シタルモノトス

佛國公証人規則第廿七條ハ本條ト同主意ナリ然レ共佛法ニハ證書ノ正本副本ニハ必ス此印章ヲ捺ストアレ共本條ニハ此文ナシ

第十二條　公証人已ムヲ得ザル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公証人ニ代理ヲ囑シ管轄始審裁判所ニ其旨

ヲ屆出ヘシ

問　已ヲ得サル事故トハ如何ナル事ナリヤ

答　疾病又ハ流行病ニテ交通謝斷等ノ場合ヲ云フ

問　近隣ノ公証人トハ近區ノ公証人ト云フ事ナリヤ

答　否近區ノ公證人ニアラス同區内ノ公証人ヲ云フ若シ之ヲ近區ト解スルニ於テハ公證人ハ管轄區外ニ於テ職務ヲ行フニ至ルヲ以テ是レハ同區内ノ公證人ニ囑託スルヲ云フ義ト解セサルヲ得ス是レ無効ノ意義ニ解セシヨリ寧ロ有効ノ意義ニ解スルノ原則ニ從フモノナリ

第十二條　公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲナサシムル事ヲ得

問　筆生トハ補助役ナルヤ

答　補助人ニハ相違ナキモ當然公證人ノ代理タルモノニ非ス

佛國公證人規則第三十六條見習生ノ規則ヲ定ム其筆生ニ等級アリテ滿六年間々斷ナク勤務シ云々トアリ公證人ノ貴重ナル斯ノ如シ

第十三條　公證人ノ作ル證書及ヒ謄本ノ用紙ハ其始審裁判所管内公證人役場ニ刻シタル罫紙ヲ用フヘシ

問　何ノ理由ニヨリテ罫紙ニ本條ノ如キ文字ヲ刻セシムルヤ

答　公正證書ヲ確實ナラシムルニハ其用紙ニ至ル迄之ヲ嚴重ニ管理シ僞造ヲ得可ラサル樣ニナサヽルヲ得ス是レ其理由ナリ

第十四條　公證人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ

第一　原本　證書ハ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ

第二　正本ハ原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願出可キ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

第三抄錄正本ハ原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノ

第四正式謄本ハ原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得ベキモノ

第五抄錄正式謄本ハ原本ノ一部ヲ抄寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得ベキモノ

第六謄本ハ原本ノ全文ヲ寫シタルモノ

第七抄錄謄本ハ原本ノ一部ヲ書寫シタルモノ

第八見出帳ハ日々授受シタル書類ノ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ

問　本條ハ如何ナル事柄ヲ記定シタルモノナリヤ

答　本條ハ公證人カ取扱フヘキ書類ノ種類ヲ示シタルモノニ過キズ

問　其種類ハ幾千種ナリヤ

答　第八種ナリ之ヲ逐一ニ弁明セン偖テ本條ヲ解スルニハ佛國公證人規則ヲ引證スルヲ要ス何トナレハ本條ニ所謂正本謄本又ハ其執行ヲ裁判所ニ願出ヘキ旨云々等ノ書式ニ至テハ未タ細則ノ發布ナキニ付知ルヲ得サレハナリ佛國公證人規則第二十五條ニ執行ノ文ヲ加記シテ渡スモノハ獨リ副本ノミトス故ニ副本ハ裁判言渡書ト其首尾ノ文体ヲ同フストアリ之ニ依テ之ヲ見レハ證書ノ書キ初ト終リトノ文詞ハ裁判言渡書ト同文ヲ以テ記スルモノナリ

第一　證書ノ原本トハ本則第三章第一節ニ定ムル法式ヲ履行シテ記シタルモノヲ云ヒ是レ佛國公證人規則第二十條ニ所

謂公證人ハ總テ已レカ取扱タル證書ノ正本ヲ保存スヘシ

トアル此正本ト同樣ナルモノナリ然レ共本則ノ正本ハ佛國法ノ所謂正本ニアラズ而メ本則ノ正本ト原本トノ相異ナル處ノ點ハ本則第三章第一節ニ依テ記スルヲ原本ト云フト本則第三章第二節ニ依テ之ヲ作リ而メ金錢其他換用物若クハ有價證券ノ支弁ニ係ルモノニ限ルモノヲ正本ト云フノ差アリテ其性質稍相異ナルモノトス故ニ原本ハ金錢ノ義務ニ關セザルモノヲモ包含シテ其限界廣ク正本ハ一ニ義務ノ執行ニ係ルモノ而已ニシテ區域狹隘ナルモノト知ルヘシ

第二　正本トハ本則第三章第二節第四十三條乃至第四十六條ニ定ムル制限ニ從ヒ記定シタルモノニシテ其性質金錢其他

數量ノ定リタル義務ノ弁濟物ノ執行力ヲ有セシムルモノナリ佛國公證人規則第二十五條ニハ未タ此制限ノ文字ナシ然レ共金額ノ明瞭ナル證書又ハ數量未定ナルモ後ニ定メ得ヘキモノナリトハ同法ノ注釋ニ見フ然レハ本法正本ノ性質ト佛國公證人規則ノ副本トハ同一ノモノナルヤ明カナリ而メ我公證人規則ニハ之ヲ正本ト云ヒ彼レハ副本ニ限ルトシ其副本ニ裁判言渡書ト其首尾同一ノ文体ヲ以テ記スヘキヿヲ定ムルノ差異アルナリ委曲ハ第四十三條ニ至テ註解スヘシ

第三　抄錄正本トハ原本ノ一部ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノトアレハ其用全ク正本ニ代ルモノニシテ第五十條ニヨリ正本ト同樣ノ法式ヲ履行シテ記シタルモノヲ

云フ

第四　正式謄本トハ原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得ベキモノトアレハ是レ又原本ニ代用セシムルモノニ過キスシテ正本及正式謄本ヲ作ルニ原本ト同時ニ作ルト原本ヲ作リタル後ニ作ルトニ依リ法式異ナリ則チ第四十四條第四十五條第四十六條其法式ヲ証定ス

第五　抄錄正式謄本トハ第五十條ニ示セル如ク正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニヨリ記シタルモノヲ云フ

第六　謄本トハ第五十二條ノ式ニ依リ記シタルモノヲ云フ

第七　抄錄謄本トハ第五十三條ノ式ニ依リ記シタルモノヲ云フ

第八　見出帳トハ第五十五條第五十六條ニ依リ作ル簿冊ヲ云フ

第十五條　原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之レヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クル爲メノ外裁判所ノ命令ニ依ルニアラサレハ役場外ニ出スコトヲ得ス

問　本條ノ主意ハ如何

答　本條ハ原本其他書類ノ本紙ヲ保存スヘキ事ヲ記シ其目的ヲ達センカ爲メ之ヲ役場外ヘ持出スコトヲ禁スルニ在リ本條ハ佛國公證人規則第二十二條ニ該リ而シテ何故之ヲ役場外ヘ持出スヲ禁スルヤヲ考フルニ蓋シ公證人ナルモノハ書類ノ預リ人ナルカ故ニ紛失ノ憂ナキ樣常ニ注意ヲ爲サヽル可ラス是レ法ニ於テ殊ニ定メタル場合ノ外役場外ニ持出スヲ禁シタル所以ナリ若シ紛失ノトキハ要償ヲ訴ヲ受クヘシ

第十六條　本裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡ス可ラス

問　本條ノ主意ハ如何

答　本條ハ關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡スコトヲ禁シタルモノニシテ之ヲ禁止スルノ理由ハ他ナシ公正ノ證書ハ公證人ノ所有物ニアラス囑託人ノ所有ナリ故ニ無關係ノ者之ヲ請求スルノ權利ナシ公證人モ亦之ヲ渡スノ條理ナク加之無關係ノモノニ之ヲ渡ストキハ囑託人ノ秘事ヲ漏洩スルノ虞アリ是第十七條ニ其漏洩ヲ禁スルモ本條ノ禁法ナカレハ第十七條ハ終ニ無効ニ歸スヘシ佛國公證人規則第二十三條ハ本條ニ該當シ而シテ該法ニハ一ノ取除アリ法律ニ於テ公告スヘキ證書ハ此限ニ非スト記セリ是レハ婚姻ノ契約證書ノ如キヲ云フ而シテ佛法ニテハ漏洩ノ刑甚重ク刑法第三百七十八條ニテ一月以上六月以下ノ禁錮ニ處セラレ百フランノ以上五百フランノ以下ノ罰金ヲ併科セラル本則ハ唯第七十六條ニ依リテ一月以上四月以下ノ停職ニ處スルノミ

第二章　公証人ノ撰任及試驗

問　公證人ノ撰任ト如何

答　本章ニ要資格アリト認メラレタルモノヲ公證人ニ撰ミ任スルヲ云フ試驗ハ資格即チ學力ノ有無深淺ヲ檢査スルヲ云フ

第十八條　公證人タル可キモノハ左ノ件々ヲ具備スルヲ要ス

第一　滿廿五才以上ナルコト

第二　身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ差入ルヘコト

第三　定式試驗ノ及第證書ヲ有スルコト

但裁判印檢察官タリシモノ及ヒ法學士法科大學卒業生代言人ハ此條件ヲ要セス

第四　丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保証スル証書ヲ有スル事

問　第一ノ理由ハ如何

答　公証人ヲ満二十五年以上ノ年齢ヲ必要ト爲シタルハ何ノ理由ニ出テシカ知ル可ラズト雖モ畢竟公証人ハ至大至要ノ職務ヲ取扱モノナレハ丁年以上ナルヿヲ要スルハ固ヨリ論ナシト雖モ何故廿五年トシタルカハ當ニ立法官ノ思料ノミト云フノ外ナシ

問　第二ノ理由ハ如何

答　身元保証金ヲ管轄始審裁判所ニ預ケルヲ要スル所以ハ身元ノ慥ナルヿヲ保証スル保證物ニシテ金錢上ノ責メアルトキハ政府ハ此保証金ヲ以テ先取ヲナスノ權ヲ有スト

問　第三項ノ理由ハ如何

答　定式試驗ノ及第證書ヲ有スルハ公證人タルニ耐フルノ學力アルヿヲ証スル爲メナリ但書ニ於テハ本項ノ要件ヲ具備スルヲ要セサル身分ノ者ヲ記シ是等ハ實ニ代言人法學者等ノ特權ト云フモ過稱ニアラサルヲ認メタルニ過ギス

問　第四ノ理由ハ如何

答　品行ヲ證スルニ丁年者貳名以上ノ保證書ヲ要スルヿヲ起定スルモノナレ共實ニ品行ハ他人ノ保證ニテハ判然ス可ラザルモノナリ然レ共法律ハ之ヲ眞實ト看認ムル又ミ限リ

第十九條　保証金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ貳百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司法大臣之ヲ定ム

問　保證金ハ現金ニ限ルカ政府ノ公債証書ニテモ可ナルカ如何

答　是レハ公債證書ニテモ可ナリト思考ス

第二十條　左ニ掲クル者ハ公證人タルヲ得ス

第一　公權剝奪若クハ停止中ノ者

第二　盜罪詐僞罪賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四　官吏懲戒例ニ依リ免職セラレタル者

問　本條ヲ設クルノ必要ハ如何

答　公證人ハ官民ノ間ニ立チ權利義務ニ關スル事ヲ取扱フ者ナレハ品行端正ニシテ相當ノ學力ヲ備ヘ正直ヲ旨トスヘキモノ也故ニ本條ニ示セル各條件ニ該ル者ノ如キ其任ニ耐ヘサルモノトス依テ其種類ヲ示スモ入ナリ

問　第二ノ條件中盜罪詐僞云々ノ罪ヲ犯シ刑ヲ受タル者トアリ然レハ罪アリテ刑ヲ受ケサル者即チ刑ノ期滿免除ニ遭テ刑ノ實行ヲ免カレタル者ノ如キハ本條ノ中ニ入ラサルモノヽ如シ如何

答　問題ノ如キハ本條ノ目的ヨリ見レハ其權衡上聊カ不穩當ノ嫌ナキニ非ス何トナレハ期滿免除ヲ得シ者ト雖モ其罪ヲ犯シタルニハ相違ナケレバナリ然レ共公訴期滿除免ヲ得タルモノハ未タ犯罪人ナリト斷言スルヲ得サルヲ以テ考フレハ罪ヲ犯シテ刑ヲ受ケザル者トハ一ニ刑ノ期滿除免ヲ得タル者ノ外道理ニ於テアラザルナリ故ニ本條罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者トアルモ彼公訴期滿免除及ヒ刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者ト謂フ可ラザルヲ以テ是等者ハ本項ノ

中ニ包含セザル者ト謂ハザルヲ得ス是レ本條ノ目的ニ於テ其權衡聊カ相違スルモノヽ如キ嫌ナキ能ハスト謂ヒシ所以ナリ但刑ノ期滿免除ハ容易ニナキモノナレハ斯ル心配ヲ用フルニ及ハズ何トナレハ刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對スル中斷法ハ其何百年ノ長キニ至ルモ刑法中未タ其何年ニ過クルヲ得サルノ期限アラサレハ也

第二十一條　公證人ヲ試驗スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クトモ二箇月前ニ告示ス可シ

問　本條ハ公證人タラントスル者ノ試驗ヲ爲ス事ノ法條ナルヤ將タ公證人ヲ試驗スルノ法條ナリヤ本條ニハ公證人ヲ試驗スルトアリ之レニ依テ之ヲ見レハ既ニ公證人タル者ノ試驗法ノ如シ如何

答　本條ハ公證人タラントスル者ヲ試驗スルノ法條ニシテ既ニ公証人タル者ヲ試驗スルノ法ニ非ス本條冒頭ニ公証人ヲ試驗スルトアリ書セシハ「タラント欲スル者ヲ」ノ數字ヲ脫シタルモノト思料セザル能ハス依テ本條ニハ右ノ文字ヲ假リニ挿入シテ讀ムニ於テ疑團ナカルヘシ

第二十二條　試驗委員ハ控訴院若クハ始審裁判所ノ裁判官三名檢察官一名トシ司法大臣臨時之ヲ命ス

問　本條ノ檢察官ハ行政官ノ職務ヲ以テ委員トナルモノナリヤ然レハ之ヲ檢察官ト謂ハスシテ檢事ト書スヘキヲ相當ナリト思料スト如何

答　檢事タリ檢察官タリ其實同一体ナレハ敢テ差支ハアラサル

第二十三條　但シ檢事ト書スルノ人優ニ此若カ誤ト思ヘ

第二十三條　試驗ノ科目ハ公証人規則民法訴訟法商法其他公証人ノ職務ニ關スル法律命令トス

問　民法トハ如何訴訟法商法トハ如何

答　民法トハ國法ニ對シテ云フノ名稱ニシテ法學上ニ於テハ法律ヲ大別シテ性法成文法トシ成文法ヲ分テ國法則チ公法私法ノ二大別トシ其私法トハ民法訴訟法商法ノ三種ヲ云フ故ニ民法ハ私法ノ一部ト知ル可シ訴訟法トハ民法商法ヲ運用スルノ法ニシテ例セハ治罪法ノ刑法ニ於ケル如キモノナリ即チ治罪法ハ刑法ヲ運用スルノ法ナレバナリ

第二十四條　公証人タラント欲スル者ハ願書ニ試驗及第証書ノ寫ヲ添ヘ管轄始審裁判所若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出ス

但裁判官檢察官タリシ者ハ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書代言人ハ其免許狀ヲ以テ及第證書ニ代フルヿヲ得

問　本條但書ニ列記スル身分ノ者ハ試驗及第證書ヲ用フルヲ要セスト云フノ意義ナリヤ

答　此但書ニ記スルモノハ試驗ヲ用ヒス直ニ公証人タルヿヲ得ルモノトス此但書アルニ依テ第十八條第三項ノ但書判然スルナニ

第二十五條　公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

問　公證人ヲ任スルハ司法大臣ナリ之ヲ免スルハ何人ナリヤ

答　亦司法大臣ナルヿ論ヲ俟タサルコト知ルヘシ

第二十六條　試驗方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試驗ニ合格セサル者ハ口述試驗ヲ受クルヿヲ得ス

問　筆記試驗トハ如何又口述試驗トハ如何

答　筆記試驗トハ問題ヲ記シテ之ヲ與ヘ書面ヲ以テ答ヲナサシムルモノヲ云ヒ口述試驗トハ口頭ニテ問ヲ起シ口上ニテ答フルヲ云フ

第二十七條　試驗及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

問　及第證書トハ如何

答　及第證書トハ試驗合格ヲ証スル證書ナリ

第三章　証書

問　證書トハ何ノ證書ナリヤ

答　公證人カ記スヘキ公正證書ヲ云フ

第壹節　証書ノ原本

問　證書ノ原本トハ如何

答　第廿八條乃至第四十二條ノ法式ヲ履行シテ公證人ノ記シタルモノヲ云フ

第二十八條　公証人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知リ面識アル

ヲ必要トシ且丁年者壹名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戸長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知リ面識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム

可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

問　本條ノ如ク嚴格ノ規則ニテハ到底公正ヲ求ムルヿ能ハザルヘシ何故斯ク嚴重ノ法ヲ設ケラレタルヤ

答　其嚴重ナル所以ノモノガ則チ公正ナル證據ナリ若シ嚴重ナ

ラス容易ノモノナレハ何ソ公正トシテ信ヲ置クニ足ランヤ

其公正ナリト信ヲ置ク所以ハ斯ル嚴重ナル法式ヲ履行シテ作レルニ因ルモノト知ルヘシ

問　全ク面識ナキ人ノ囑託アル時ハ如何スルヤ

答　其時ハ其囑託スル人ノ本籍又ハ寄留地ノ區郡長若クハ戸長ヨリ其人ハ何町村ノ者ニ相違ナキ旨ノ保證狀ヲ取リテ而ノ後公証スルカ又ハ公證人カ常ニ知已タル人貳名以上ノ證明ヲ以テ公證ヲ與フルモノトス

問　本條ノ證明人ハ丁年タルヿヲ必要トスルヤ

答　固ヨリ丁年ノ人タルヘキハ論ヲ俟タス未丁年者ハ不能力ト云ヒテ治罪法第百八十一條ニモ證人トナルヿヲ許サヽル程ノモノナリ法律上證人トナルヲ許サヽルモノニテ法律上人

ノ證明ヲナスヲ許スヘキノ理由ナシ

問　是レニ背キタルトキハ其裁制ハ如何

答　公正ノ證書タル効力ナカラシムルニ在ルノミナラス公証人ハ罰ヲ受クヘシ

第二十九條　左ニ掲クル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一　公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公証人ノ筆生

第二　第廿條ニ掲ケタル者

問　本條立會人トハ如何又立會人トナルニ何故第壹第貳項ノ制限ヲ置キシヤ

答　立會人トハ証據人ト同シ然レハ何故證人ト書セザリシヤト云フニ立會人モ其實ハ第二十八條ノ手續ヲ爲スニ必要ナル條件ヲ履行セシヿヲ証セシムルニ在ルモノナレハ證人ト同

一ナレハ之ヲ證人ト書スルモ尚ホ可カレ共法律ニ於テ證人トナル可キハ治罪法ノ定ムル如ク宣誓ヲ為サシメザル可ラス然レ共本邦未タ民法ノ証人ニ宣誓ヲ立ツヘキノ法律ナキヲ以テ證人ト書スルヨリモ立會人ト書スルノ穩當ナルニ若カス是レ立會人ト書スル所以ナリ

本條第一二項ノ嚴格ナル制限ヲ要スルモ立會人ハ其實證人ト同一ニノ事ヲ証セシムルニ在ルカ故ナリ凡ソ人ノ証ナルモノハ時ニ詐僞アルヲ免レス故ニ其正實ノ人ヲ要スルヤ固ヨリ論ナシ佛國民法ニ於テモ人證ヲ許スハ金額百五十フラン以下ノ事件ニ限レルノ明文アリテ其重大ノ事件ニ人証ヲ許サヽルハ蓋シ此理由ニ出ルヿヲ知ルヘシ

第三十條　證書ニハ其本旨ノ外左ノ件々ヲ記載スヘシ

第一　囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齡

第二　囑託人代理人トナル者ハ委任狀ヲ所持シタルヿ及其本人ノ族籍住所職業氏名年齡

第三　囑託人後見人ナルトキハ後見人タルノ證書ヲ所持シタル事及其本人ノ族籍住所職業氏名年齡

第四　郡區長戸長ノ證明書ヲ以テ證シタル件ハ其旨公記人ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齡

第五　證書ヲ作リシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年月日ノ記入ヲ遺脫シタル件ハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

問　本條ニ其本旨ノ外云々トアリ其本旨ト云ハ如何

答　本旨トハ公正證書トナス所ノ事柄ニシテ例ヘハ賣買ナレハ

賣買契約ノ事柄則チ雙方ノ承諾代價目的ノ物件且賣主ノ所有物等ヲ本旨ト云フ然レ共夫レ丈ケノ記入アルモ其證書ノ囑託人ナケレバ何人ソ公正證書ナルヤ知ル可ラス是レ其人ノ族籍住所氏名ヲ記スルノ必要ナル所以ナリ

問　年齢ヲ記スルノ必要ハ如何

答　未丁年者ハ契約ヲ結ビ立會人タルノ能力ナキニ付其年齢ヲ書セシムルハ後日其年齢ニ就テノ故障ヲ取調ルニ便利ナレハナリ

問　郡區戸長ハ必ス證明書ヲ交付スヘキノ義務アリヤ

答　證明書ヲ與フヘキノ義務アリ何トナレハ已レカ管轄人民ノ族籍住所氏名年齢ハ帳簿ニ明カナレバナリ

問　本條第一項ヨリ第四項ノ記入ヲ遺脫スルモ公正證書ノ効力アリヤ

答　其効力アリ但ス如何トナレハ無効タルノ明文ナケレバナリ

問　第五項ノ年月日場所ノ記載ナキ時ニ限リ公正ノ効ヲ失ハシムルノ制裁アルハ何ノ理由ナルヤ

答　年月日ヲ記スルノ必要ハ種々アリ立會人囑託人ノ年齢ヲ知ルノ要アルヤミナラス公証人ノ職權アリシヤ否ヤヲ知ルノ要用アリトス

又場所ノ如キハ役場外ニ於テ職務ヲ行フタルノ嫌疑アルヲ以テ其場所ヲ記スルハ大ニ必要ナリトス

第三十一條　證書ヲ作ルコハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス

[illegible]

接續ス可キ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續ス可

數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸漆捌玖拾陌阡萬ノ字ヲ用フベシ

問　本條ハ何ノ爲ニ設ケタルヤ

答　證書ノ公正ヲ期スル爲メニ設ケタルモノナリ故ニ證書ニ記スル字句及語辞ハ成ル丈ケ人ヲシテ讀易ク而ノ字ハ其書ヲ正シ曖昧ナル字ヲ用フルヲ禁ス

問　第三項ノ接續スヘキ字行云々トハ如何ナル事ナリヤ

答　例ヘハ左ノ如ク書ク時ニハ接續スヘキ字行ニテ空白ノ生スルヿアリ

借用證券

一金何十圓――利息壹ケ月何朱

此抵當地

字番號

一田何町歩

右ハ無據入用ニ付借用申處實正也云々

右ハ今日行ハルヽ處ノ普通ノ借用證券ノ例文ナリ然ルニ金何十圓ノ下利息ノ所迄ハ空白ナリ故ニ茲ニ墨線ヲ引テ他日私カニ字句ヲ挿入スルノ弊ヲ防クナリ

抑公正證書ノ効ハ反對ノ証アル迄ハ確實ノ證書ト看做スモノナリ然ルニ他日私カニ挿入シ得ヘキノ恐レアル如キハ公正証書ノ本旨ニ悖ルモノト謂ハサルヲ得ス是レ本條ノ記定アル所以ナリ

第三十二條　度量衡貨幣ノ數量名稱及暦法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ

之ヲ記スヘシ

既ニ廢シタル度量衡貨幣暦法又ハ外國ノ度量衡貨幣暦法ヲ記セサルヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ用フルヿヲ得

問　度量衡トハ如何貨幣ノ數量名稱トハ如何又既ニ廢シタル貨幣暦法トハ如何

答　度トハ尺度ト云ヒ物指(モノサシ)ニシテ量トハ秤量トテ俗語ノ斤量ヲ云ヒ衡トハ桝量ナリ數量名稱トハ例ヘハ何間何尺何十丈又ハ何貫目何斤ト云フカ如ク是數量名稱ナリ法律ノ定ムル所ニ依ルトハ例ハ貨幣ハ新貨條例ニ定ムル如ク圓又ハ錢ト稱シ桝ハ何斛何舛何合ト稱スルノ類ヲ云フナリ而メ已ニ廢シタル貨幣トハ則チ何兩何分何朱ト稱スルノ類又暦法トハ何年何月何日ト云フノ類ナリ

第三十三條　證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公認人並ニ關係人捺印スヘシ又文字中消字ヲ爲ストキハ其原字ハ尚ホ明カニ讀得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印スヘシ之ニ違ヒタルトキハ追加改正等字ノ効ヲ有セス

問　本條ノ主意ハ如何

答　本條ハ證書ニ書キ足シヲナシ又ハ文字ヲ書キ改メ或ハ文字ヲ消シタルトキノ取締法ニシテ證書ノ公正ヲ期スル目的ニ出ルモノナリ凡公證人本則ニ從テ記スル證書ヲ公正證書ト稱シ確實ナルモノトスルニヨリ文字ノ挿入塗抹改正等ヲ猥リ

ニ爲スヿヲ禁セサル可ラス之ヲ猥リニ爲スヿヲ措テ問ハサレハ終ニ公正ノ公正タル所以ニ悖戻シ信ヲ置クニ足ラサルニ至ル之レ本條ノ制限ヲ設ケ他日改正塗抹插入等ノ爭ヒアルニ際シテモ其眞否ヲ檢スルニ容易ナラシムルニ在ルモノトス若シ本條ノ記定ニ背キ公證人關係人ノ認印ナキトキハ改正插入塗抹ノ効ナク之ヲナサヽリシ以前ト同樣ノ効アラシムルニ止ム蓋シ良法ナリトスヘシ

第三十四條　證書ヲ作リタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公證人並ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ某治安裁判管內某地住居ト肩書ス可シ若シ其公證人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十五條　若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之レニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

問　關係人トハ何ヲナルヤヲ詳ニセヨ

答　關係人トハ囑託人立會人證人等ヲ云フ

第三十六問　公證人ノ肩書ニ某治安裁判所管內某地ト書スヿヲ要シトアルハ何ノ必要ヨリ出テシヤ

答　是レハ公證人ノ管轄外ニ亦ラザルヿヲ證スル爲ナリ

問　自署スル能ハザルモノニハ明治十年第五十號布告ニ依ルトアリ其布告ハ如何ナル事ヲ指スヤ

答　左ノ如シ

明治十年第五十號布告

諸證書ノ姓名ハ必ス本人自カラ書シテ實印ヲ押スヘシ若シ自署スルヿ能ハサル者ハ他人ヲシテ代書セシムルヲ得ルトヽ雖モ必ス其實印ヲ押スヘシ其代書セシ者ハ本人姓名ノ傍ニ其代書セシ事由ト已レノ姓名トヲ記シテ實印ヲ押スヘシ

有ノ手續ヲナサヽルニ於テハ公正證書タルノ効力ナク私ノ證書トナスヘシ

第三十五條　證書ノ綴目合目ニハ公證人並囑託人之ニ捺印ス可シ

問　綴目合セ目ニ認印ヲ捺スルハ何タ爲メナリヤ

答　他日私ニ綴目ヲ替ヘ變更ヲナスノ弊ヲ防クニ在リ

第三十六條　公證人ハ自已及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理人タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

問　公證人自已ノ爲メニ公正證書ヲ作ル能ハサルハ固ヨリ然ルヘシ然レ共親族ノ爲及ヒ親屬他人ノ代理タルトキニ於テモ之ヲ許サヽルハ如何

答　本條ハ佛國公證人規則第八條ト同主意ニテ畢竟親屬ノ爲メ不正ノ事ニ出ルヿアランヲ防クノ目的ニ出テ佛法ニハ已レノ本系ノ親姻族ノ親ハ等級ヲ論セス傍系ノ親ハ叔姪ノ級ニ至ル者ノ該契約中ニ關係スルトキハ其證書ヲ作ルヲ得ストアリ是レ公證人ハ公平不偏ヲ以テ職務ヲ採ルモノナレ共親屬ノ爲メ情義ニ惑ヒ意ナラスシテ其義務ヲ曲ケラルヽノ恐ナシト云フ可ラサレハナリ

然ルニ佛法ノ如ク親族ノ等級ニ定限ナケレハ之ヲ刑法第百

十四條第百十五條ノ所謂親族ナリト暫ク解釋シテ可ナラン何トナレハ此禁法タル情義ニ引カサレ不正ノ公證ヲ爲スニ出ルコアルモ知ル可ラストノ法律ノ推測ニ出テシモノニシテ而ノ刑法上ノ親族モ其情義互ニ相引クヘキノ親ヲ推測メ定メタルモノナレハ其情義互ニ相引クノ權衡ハ刑法ト本則トニ於テ毫モ異ナルノ理由アラサレハナリ親族代理人タルトキト雖モ親族タルノ關係ハ同一ナリ爰ヲ以テ之ヲ許サストス爲スモノト知ルヘシ

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ代言人ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付證書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

問 公證人カ囑託人ノ代言人トナル場合アリヤ果ノ之レアリトセハ代言人ト公證人トハ兼帶ヲナスヲ得ルモノナルヤ又果ノ然レハ公證人ハ官吏ニハアラサルヤ且ツ又其證書ヲ作ル可ラサルノ理由ハ如何

答 先ツ其證書ヲ作ル可ラザルノ理由ヨリ答ヘン之ヲ作ルヲ得サルノ理由ハ他ナラス凡人ハ自己ノ爲メニ利ヲ謀ルハ聖人ニアラサルヨリハ免レズ故ニ公證人ハ公平不偏ノモノトハ雖モ其訴訟事件ニ自己カ證書ヲ作ルヲ許セハ自由自在ノ公證ヲ作リ以テ裁判上勝ヲ謀ルヲナシト謂ノ可ラス是レ之ヲ防ク爲メ本條ノ設クアル所以ナリ

偖公證人ハ代言人ヲ兼帶シ得ヘキヤ否ヤノ問題ニ至テハ甚タ困却セサルヲ得サルナリ何トナレハ明カニ之ヲ兼帶スル

ヲ得ヘキノ明條ナク僅ニ本條中〔公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代言人トナリ又ハナリタルコトアルトキハ〕トアルノミナレハナリ然ルニ公證人ハ官吏タルヤ將タ官吏ニハアラサルヤノ疑アリテ若之レカ官吏タル以上ハ代言人ト兼ヌルヿヲ許サス官吏ニアラサレハ兼帶スルヲ許スノ義ト解スルモ敢テ不當ノ解釋ト謂フ可ラス然レハ公證人ハ官吏ナルカ之ヲ本則第二條他ノ官吏云々トアル此官吏ナル文字ヲ反對ヨリ云ヘハ公證人ハ官吏ノ如ク又本則第二十五條ニ公證人ハ司法大臣之ヲ任ストアル等ニ依レハ亦公證人ハ官吏ノ如キ感ヲナセリ若シ官吏ニアラストセハ何故之ヲ任スト云フカ代言人ノ如キハ同ク裁判所構成ノ壹部ヲ爲スモノナリト雖モ未タ嘗テ代言人ニ任スト云ヒシモノアルヲ見ス是官吏タルニハアラザルヤノ疑アル点ナリトス去リナガラ是ノミニテハ未タ公證人ヲ官吏タルカ將タ否ラサルヤヲ斷定スル能ハス依テ之ヲ暫ク佛法ニ質スニ同法第壹條ニ〔公證人ハ各人民ノ契約ヲ爲スニ付公正ニナス可キモノト爲スト爲サヽルト自由ナル證書類ヲ作テ之ヲ保證シ之ヲ預リ副本ヲ渡シ其寫ヲ作ラシムル爲ニ設クル公ケノ官吏ナリ〕トアリ是ニ依テ之ヲ見レハ公ケノ官吏ナルハ固ヨリ明カナレ共彼ノ司法行政等ノ純粹ノ官吏ニアラザルヿ知ルヘシ彼ノ代書人モ同樣ナリトス故ニ官吏ニ三種アリテ純粹ノ官吏公ケノ官吏トス面ノ其公ケノ官吏トハ之ヲ支那語ニ所謂官憲トハ同一視ス可キモノニ非ス俗ニ所謂御役人ニハアラサルモノト解ス可シ然レハ公證人ハ本邦官制ニ適當スル官吏ニ非ス果タ然レハ代

書人タリ府縣會議員タリ商人タリ代言人タルモ法律ノ禁スル所ニ非ス法律之レヲ禁セス故ニ本條ニ公訟人ニシテ囑託人ノ訴訟代言人タル場合アルヿヲ云ヒシ所以ナリトス依テ其公證人ノ官吏タルヤ否ヤハ官制ニ適スルト然ラサルトヲ以テ區別スヘシ

第三十八條　公證人ハ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記スヿヲ得ス若之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

問　本條ハ如何ナル主意ナルヤ

答　本條ハ囑託人ノ外自己ハ固ヨリ親屬立會人證人等ノ利益トナルヘキヿヲ記スヿヲ可ラサル旨ヲ記スルモノナリ畢竟證書ハ囑託人ノ爲ニ作ルモノニシテ立會人證人等ノ爲ニ作ルモノニアラサレハナリ

第三十九條　公證人ハ證書ノ原本ヲ保存スヿヲ得シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲サヽルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

問　本條ノ主意ハ如何

答　公證人ハ證書ヲ預ルモノニシテ其證書ヲ保存スルハ他日爭論等ノアリタルヿヲ證據ノ爲メニスルモノナリ然ルニ其目的タル證書ヲ保存セス公證人ノ効何レニ在ル是レ證書ヲ保存スルノ必要ニシテ保存スヘキヿヲ記定スル所以ナリ第四十七條ノ手續トハ原本亡失ノトキハ始審裁判所ノ認可ヲ得テ正本又ハ正式謄本ヲ原本トナスノ手續ナリ是レニ背クトキハ公正ノ効ナキヿヲ示スハ其手續ヲ怠リ又ハ之ヲ爲サヽリシノ

制裁ナリ

問　然ルニ公証人カ原本ヲ保存セス第四十七條ノ手續ヲナサヽルカ爲メ公正ノ効ヲ失フハ其制裁囑託人ニ及フモノナリ公証人ノ過失ヲ以テ過失ナキ囑託人ヲシテ公正ノ證書タル効力ヲ失ハシムルモノハ苛刻ニアラズヤ

答　曰然リ苛ハ則チ苛ナルニ似タリト雖モ爲メニ公證人ハ囑託人ヨリ損害要償ノ訴ヲ受クルヲ以テ囑託人ニ大ナル迷惑ナシ

第四十條　囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其証書ノ寫ヲ原本ニ連綴スヘシ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公証人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ割印ス可シ

問　本條ノ主意如何

答　本條ハ囑託人代人ナリシトキノ處分方ヲ定ムルモノナリ而ノ本人自カラ囑託スルハ通常ニシテ代人囑託人トナルトキハ變則ナリ變則ハ通常ノ場合ヨリ尚ホ綿密ナル方法ヲ採ラサル可ラス則チ本條ハ其方法ヲ定ムルナリ

問　若シ代人ヲ以テ囑託スルトキ代人タルニ相違ナキヲ何ヲ見認ムルハ何ノ方法ニ依ルヤ

答　委任狀ノミニテハ未タ以テ其人ノ代人タルコトヲ信スルニ足ラス故ニ本則第三十條郡區長ノ証明書ニ依ルモノトス

第四十一條　證書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連綴スルコトヲ得之ヲ連綴シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公證證人並ニ關係人捺印ス可シ

問　証書ニ關係ノ書類トハ如何之ヲ連綴スルハ必スヘキ事ナリヤ如何

答　証書ニ關係アル書類トハ郡區長戸長ノ証明書又ハ第四十四條ノ命令書等ノ類ヲ云フ而ソ之ヲ連綴スルハ必スヘキ事務ニハアラス公証人ノ意見ニ從フモノナリ故ニ連綴セサル也其制裁ナシ但シ裁判所ノ命令書ハ必ス連綴スヘキモノトス

第四十二條　原本ニハ証券印税規則ニ定メタル印紙ヲ貼用スヘシ

問　証券印紙ヲ貼用セサル証書ニハ公証ヲ與フルヿヲ拒ミ得ルヤ

答　之ヲ拒ムヿヲ得ヘシ何トナレハ本則第二條ニ〔公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公證書又ハ云々作ルヿヲ得ス〕トアレハナリ

第二節　正本及謄本

問　正本及ヒ謄本ノ性質ハ如何

答　本則第十四條第二及ヒ第六項ニ正本及ヒ謄本ノ性質ヲ明記シアレハ之レニ就テ見ル可シ尚ホ之レヲ作ルニ付テノ規則ハ本節ニ於テ定ム

第四十三條　正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價証券ノ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡スヘシ之レニ違ヒタルキハ正本ノ効ヲ有セス

正式謄本及ヒ抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

問　本條ハ如何ナル趣意ナリヤ

答　本條ハ正本ノ性質トシテ之レヲ渡スハ必ラス權利者ノ請求ニ依

ラサル可ラサルヿヲ記シ第三項ニ至テ正式謄本及ヒ抄錄正式謄本モ亦權利者ノ請求ニ依リ之レヲ渡スヘキモノナルヿヲ記定シタルモノナリ

問　正本ハ何故金錢其他換用物若クハ有價證券ノ支辨ニ限ルトセシカ又換用物若クハ有價證券トハ如何ナルモノナリヤ

答　正本ヲ金錢其他換用物等ニ限ルトセシ理由ハ他ナシ此ノ証書ハ直チニ裁判所ヘ執行ヲ願出裁判所ニ於テハ別ニ裁判ヲ用ヒス之レニ執行ヲ命令スルノ力アルモノナレハ其義務ノ目的物モ直チニ權利者ニ引渡サレ得ヘキモノニアラサレハ此ノ証書ノ目的ヲ達スル能ハサルカ故ナリ例ヘハ金錢ハ何時ニテモ命令通リ引渡スヿヲ得ヘシト雖モ若シ其金錢ヲシテ爲ス可キノ義務トシタランニハ到底其執行ヲ命セラルヽモ義務者之レヲ爲サヽルニ於テ强テ執行ヲ爲ス能ハス强テ執行ヲ爲サシメントセハ人身ノ自由ヲ害セシ之レ本條ニ金錢其他換用物若クハ有價證券ト限リタルモ畢竟是等ノ物件ハ執行ヲ爲スニ差支アラサルカ故ナリ而ノ換用物トハ之レヲ代用物トモ云ヒ得替物トモ云フテ金錢ニ換リ又ハ其品ト彼ノ品ト換ハルモノヲ云ヒ有價証券トハ公債証書爲替手形及ヒ諸會社ノ株券等ヲ云フ此ノ證書ヲ權利者ノ請求ニ依リ渡スヘキモノト限リタルハ權利ハ之ヲ行フト行ハサルト權利者ノ自由ニ在ルカ故ナリ

問　前項ノ末尾ニハ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ効ヲ有セストアリ然レハ第一項中ノ記定ニ背キタルモノアルトキハ總テ正本ノ効ヲ有セス之レニ依レハ權利者ノ請求ニ依リ云々ノ点ニ背

キタルトキモ此ノ制裁アルニ似タリ然ルニ第二項ニハ此ノ制制ナシ如何

答　是レハ權利者自ラ求メサルニ執行ノ効力アル如キ證書ヲ作リ之レヲ授與スルカ如キハ公證人ノ本分ニ背ク如何トナレハ第一條ニ公證人ハ人民ノ囑託ニ應ストアレハナリ

第四十四條　正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作リタル後ニ於テ之レヲ作ルヿヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作リタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムルモノヨリ管轄始審裁判所ニ出頭シ其命令ニ依テ他ノ公証人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之レヲ作ル可シ之レニ違セタルトキハ其効ヲ有セス裁判所及檢察官ハ其命令ヲ及ホシ

裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作リタルトキハ其末尾幷ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之レヲ原本ニ連綴スヘシ

問　本條ノ趣意ハ如何

答　正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキノ法式ヲ記定シタルモノナリ

問　本條ノ證書ヲ作ルニ原本ヲ作ルトキト原本ヲ作ルヨリ後ニ作ルトニ於テ如何ナル法式アリヤ

答　原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テ作ル可シ原本ヲ作リタル後ニ之ヲ作ルトキハ其證書ノ義務者ヲ立會セシムヘシ若シ義務者出席セサルトキハ其證書ヲ求ムルモノヨリ管轄始審裁判所ニ願出他ノ公證人一員カ又ハ裁判官檢察官書記

員カ是レ等ノ役員ノ立會ノ上ニアラサレハ此ノ證書ヲ作ルコトヲ得ス是レニ違ヒ立會ナクシテ作ルモ其効ナカルヘシ但シ其効ナシト云フハ其作リタルモノニ付テ云フモノナレハ他日本條ノ式ヲ履行シテ之レヲ作ルニ於テハ差支アルコトナシ

問　第一項ノ裁判所ノ命令書ハ之レヲ原本ニ綴リ込ムヘキハ勿論ノコトト知ルヘシ如何トナレハ他日裁判所ノ命令ニ依テ相當官吏ノ立會ニテ作リシヤ否ヤノ證據ナキニ至ル之レ是レヲ連綴シ置ク可キノ理由ナリ

第四十五條　正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及ヒ第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名幷ニ之レヲ作リタ年月日及ヒ場所ヲ記シ公證人幷ニ義務者署名捺印スヘシ

問　本條ハ如何ナル場合ニ用ヒラルヘキカ

答　前條第一項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所又官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

第四十六條　裁判所又官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有

問　本條ノ趣意ハ如何ナル場合ニ用ヒラルヘキカ

答　本條ハ正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキニ履行スヘキ法條ヲ記載スヘキ事項等ヲ記定シタルモノナリ而シテ此ノ證書ヲ作ルニ當テ本文ニ掲クル法條ノ規則ヲ守ラサルヲ得サルハ勿論殊ニ記載セルヘキ權利者ノ氏名此ノ證書ヲ作リタル年月日及ヒ場等所本リ尚ホ前條ノ立會ヲ要セシトキハ其立會ノ公證人裁判所ノ官吏等ノ捺印ヲ要シ且ツ證書ヲ作

リタル公證人幷ニ義務者ノ捺印ヲ必要トス之レニ背キタル
ト キハ正本又ハ正式謄本ノ効力ヲ有セス爰ニ述ヘ置クヘキコ
ハ年月日場所ヲ記スル人必要ナル理由是レナリ偖年月日ハ
契約者ノ年齢ヲ算スルノ基点トナリ年齢ヲ知ルハ能力ノ有
無ニ關シ又場所ノ如キハ公證人管轄ヲ知ル人効アルヲ以テ
此ノ二ツノモノハ是非記載セサルヲ得サルモノナリ若シ本
條ニ定ムル個條ノ内一個條タリ𪜈背クニ於テハ正本又ハ正
式謄本ノ効力ナカルヘシ

第四十六條　正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト
年月日トヲ附記シ權利者ナシテ署名捺印セシムヘシ

問　本條ノ趣意ハ明カナリト雖𪜈原本ノ末尾ニ之レヲ渡シタル
旨ト年月日ヲ記スル理由ハ如何

答　正本又ハ正式謄本ハ數度渡スヘキモノニアラス故ニ其渡シ
タル事柄ト年月日ヲ記セサルトキハ他日再ヒ之レヲ求メ來ル
コトアリタルトキ其已ニ一回渡シタルコトアリヤ否ヤヲ調査スル
コトヲ得ヘカラサルヲ以テ本條特ニ之レヲ記載スヘキコトヲ定
ムル所以ナリ

第四十七條　正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキ管轄始審裁判
所ノ認可ヲ經之レヲ原本トシテ保存スヘシ

問　本條ハ如何ナル趣意ナルヤ

答　本條ハ原本ノ亡失シタルトキ正本又ハ正式謄本ヲ以テ原本ト
シテ保存スヘキコトヲ記定ス但シ管轄始審裁判所ノ認可ヲ經
サルヘカラス

第四十八條　數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ權利

者ノ請求ニ依リ其有用ノ部分ヲ抄錄シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルヿヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルモノニハ更ニ抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ヲ渡シタルモノニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡スヿヲ得可キヿヲ定メ第二項ハ正本又ハ正式謄本ヲ一回渡シタル上ハ更ニ其抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ヲ渡サヽス又之レヲ渡シタルトキハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡スヿヲ可カラサル旨ヲ

可ラス之レヲ渡スト雖其効ヲ有セスト

問　本條第一項第二項ノ趣旨ハ如何

答　第一項ハ數事件ニテ數人關係ノ異ナル證書ハ權利者ノ請求ニ依リ其必用ノ部分ヲ拔萃シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルヿヲ得可キヿヲ定メ第二項ハ正本又ハ正式謄本ヲ一回渡シタル上ハ更ニ其抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ヲ渡サヽス又之レヲ渡シタルトキハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡スヿヲ可カラサル旨ヲ定メ

問　數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ如何ヤ

答　例ヘハ佛國相續ノ場合ニ於テ相續人數人アリテ互ニ其關係ヲ異ニスル場合ノ如キ其相續ノ前代ノ死者カ或ル一人ニ對シテ種々ノ義務ヲ負ヒ死シタル時ハ依リ其負債辨償ノ義務ハ相續人ニ移リ其相續人ハ之レヲ拒ムヿヲ得ス又モノモアリ又得サルモノモアリ又相續ノ金高相當ノ義務ヲ負ヒ所有本負擔セサルモノモアリ斯ノ如キハ則チ本條ニ所謂數事件ニ關テ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ナリ是等ノ證書ハ其數事件ヲ各別ニシ正本又ハ正式謄本ヲ作スハ繁雜ニ堪ヘサル而モアラン故ニ權利者ノ請求ニ依テハ之レヲ抄錄シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルヿヲ得可シト定ムル所以ナリ但シ是レハ變

則ナレハ必ス權利者ノ請求アリタル時ニアラサレハ能ハサル
ナリ

本條第二項ハ正本又ハ正式謄本等ヲ一旦渡シタル後ヤ再ヒ渡ス可カラサルコトヲ定ムルモノナレモ夫レニハ制限アリ正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ヲ渡ス可カラストアリテ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラサルコトノ記載ナシ然レハ之レヲ渡シタル時ハ證書ノ効アリ而シテ更ニ渡シタル證書カ抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ニテアリシ時ハ其證書ノ効ナシ權衡穩カナラサルカ如シト雖モ是レハ正本又ハ正式謄本ト雖モ同一ノ人ニ二回渡スコトハ禁セラレタルモノト解スル方相當ナラン乎然ラサレハ第二項ノ趣意判明セサルヘシ

第四十九條　正本又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ヘ命令アルニアラサレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スルモノハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ヘ願出ツヘシ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡スヘキコトヲ命スルコトアルヘシ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルヤヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印スヘシ之レニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

問　本條ノ全体ノ趣意ハ如何

答　第一項ハ正本及ヒ正式謄本ハ再度渡ス可カラサル旨ヲ記定

答　第二項ハ已ニ之ヲ得タル再度以上之レヲ得ントスルモノハ裁判所ニ願出テ請求ヲ爲シ得ヘキヿヲ記定シ第三項ハ再度以上ノ正本又ハ正式謄本ニ附記スヘキ事柄ヲ記定ス

問　何故始審裁判所ニ事由ヲ具シテ願出ヘキモノト爲シタルヤ

答　再度以上渡スハ變則ニシテ變則ハ之レヲ慥カニ爲シ置カサルヲ得ス而シテ裁判所ニ願出テシムルハ再度以上之レヲ求ムル事由ノ當否ヲ判定スルニアリ然レトモ裁判所ハ必ラシモ其願ヲ採用スヘキノ義務ナシ故ニ採用セサルヿモアルヘシ若シ裁判所之レヲ採用シテ更ラニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可キヿヲ公證人ニ命令スル公證人之ヲ作リタルトキハ其何度目ナルヤヲ記シ公證人署名捺印スルヿヲ要ス之レヲ違ヒタルトキハ其證書ハ効ヲ有セス

第五十條　抄錄正本又ハ正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ルヘシ其効力モ亦同シ

問　本條ノ趣意ハ如何

答　本條ノ趣意ハ抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ハ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ヲ履テ作ルヘキモノナルヿヲ示シ且ツ其効力モ正本又ハ正式謄本ト同一ナルヿヲ示スモノナリ本條若シ此ノヿヲ記定セサレハ抄錄正本又ハ抄錄正式謄本モ何ノ効ヲ有シ如何ナル法式ヲ履テ作ルヘキモノナルヤ否ヤ判然セス此ノ記定アルカ故ニ第四十八條第二項ニ正本又ハ正本謄本ヲ渡シタルモノニハ更ニ抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ヲ渡ス可カラサルヿヲ定メタル理由ノ倍判明ナルヲ知ルヘシ

如何トナレバ同一ノモノナルカ故ナリ[illegible]

第五十一條　證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求ニ應シ之ヲ渡スヘシ[illegible]

問　本條ノ趣旨ハ明瞭ナレ𪜈關係人トハ立會人ヤテモ包含シ居ルヤ如何[illegible]

答　證書ヲ作ル法式ヲ記定シタル法條ニ關係人ト云フモノトハ立會人證人ヲ包含スト雖𪜈本條ノ關係人ハ權利義務ニ關係スル人ノミヲ云フモノナルヘシ如何トナレハ權利義務ニ關セサル立會人證人ノ如キハ其證書ノ寫ヲ求ムルノ要アラサレハナリ[illegible]

第五十二條　謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印スヘシ[illegible]

問　本條ハ別ニ疑ナシト雖𪜈謄本ト附記スヘキ理由ハ如何[illegible]

答　其謄本ナルヲ附記スヘキ理由ハ他ナシ之レヲ附記セサルニ於テハ謄本ナルヤ將タ正式謄本ナルヤ知ル可カラス其正式謄本ナルヤ單ニ謄本ナルトハ其證書ノ効力ニ差異アレハナリ其差異ハ正式謄本ハ直ニ原本ニ代用シ得可キモノナレ𪜈謄本ハ然ラス如此ナレハ其證書ノ名稱ヲ附シ置ク可キハ必要ナルヲ知ルヘシ[illegible]

第五十三條　抄錄謄本ニハ原本ノ年月日及ヒ囑託人ノ屬籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄錄謄本ト記シ公證人署名捺印スヘシ[illegible]

問　本條ノ趣旨ハ如何[illegible]

答　本條ハ抄錄謄本ニ記載スヘキ條件ト公證人ノ捺印ヲ要スル

ヿヲ記定シタルモノニシテ抄錄謄本ハ原本ノ抜キ書ナルヲ以テ其原本ノ年月日及ヒ囑託人ノ住所氏名等ヲ記シ而メ抄錄謄本ト記スヘキヿヲ定ムル理由ナリ

第五十四條　管轄始審裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書ヲ原本ニ連綴末尾ニ命令書ヲ受ケタル者幷ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシムヘシ

問　關係外ノ者ニ謄本ヲ渡スヿヲ得ル場合ハ如何

答　公正ノ證書ハ總テ關係外ノ者ニ渡サルヿヲ以テ正則トス故ニ本則第十六條ニハ特ニ裁判所ノ命令アルニアラサレハ關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡スヿヲ禁スルノ明文アル所以ナリ然レ𪜈裁判所ノ命令ナルトキハ此ノ正則ヲ變シ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡スノ特例アルヘシ實際ニ於テハ關係外ノ者ハ謄本ヲ求ムルヿハ概シテナカルヘシ如何トナレハ已レニ損益ナク徒ラニ謄本ヲ求ムルノ要アラサレハナリ

第三節　見出帳

問　見出帳トハ如何ナル[illegible]ノナリヤ

答　日々取扱タル事件ヲ記載スルモノニシテ第五十六條ニ定ムル事柄ヲ記スヘキモノヲ云フ之ヲ佛國公証人規則ニ質スニ其第三十九條ニ於テ見出帳ノ事ヲ記定シ本則第五十六條ト其趣意ヲ同フス抑モ見出帳ナルモノハ何ノ爲メニ作レルヤヲ考フルニ蓋シ日々取扱タル證書ノ見出ニ便ナラシメ其他印税則及ヒ登記法ノ執行ヲ慥カメ證書記載ノ法式ニ適シタルヤ否ヤヲ見出スノ要具トスルニ在リ[illegible]

第五十五條　公證人ハ見出帳ヲ作リ記入前管轄始審裁判所ニ差出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受クヘシ

問　見出帳ニ裁判所々長ノ官印ヲ受クルハ何ノ爲メナリヤ

答　本條ハ佛國公證人規則第三十條第一項ト同趣意ニシテ其帳簿ノ綴リ目合セ目ニ裁判所々長ノ官印ヲ受クルハ他日見出帳ヲ防カニ增減スルノ弊ヲ防クニアリ

第五十六條　見出帳ニハ日々取扱タル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ記定ニ從ヒ左ノ件々ヲ記入スヘシ

第一　嘱託人ノ住所氏名

第二　書類ノ番號種類

第三　書類ヲ取扱タル年月日

問　本條ノ趣旨ハ如何

答　本條ハ見出帳ニ記載スヘキ法式ト其種目トヲ記定シタルモノニシテ其法式ハ第三十一條ニ所謂平易ナル文字ヲ用ヒ又ハ數字ヲ記スルニ畧字ヲ用ヒタルヿ又第三十三條ニ所謂追加消字欄外ノ記入等アルトキハ其字數ヲ記載シ公證人關係人ノ捺印ヲ要スル事等ナリ

第四節　兼任及書類ノ授受

問　本節ノ要旨ハ如何

答　本節ニ於テハ公證人死去又ハ免職等其他ノ場合ニ於テ他ノ公證人ヨリ其事務ヲ兼任セシムルニ付テノ法式ト其前任ノ公證人ヨリ後任ノ公證人ヘ書類ノ引繼ヲナス法式ヲ記定セシモノナリ

第五十七條　公證人死去失踪免職辞職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直

[illegible]後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公証人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシムヘ[illegible]役場ヲ廢スタルトキ其書類ノ引繼ヲ近隣ノ公証人ニ命スヘシ

問　本條ノ趣旨ハ明瞭ナルモ停職ノ場合トハ如何ナルトキヲ云フ[illegible]

答　公証人本則ニ背キタルトキ其罰トシテ或ル時間職務ヲ行フヿヲ停止セラルヽヿアリ則チ本則第五章ニ就テ見ルヘシ

第五十八條　前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト見認ムル場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ為スヿヲ命シ[illegible]

問　本條ニ兼任者ナキ場合トアリ必果ノ然ル場合アリヤ又其他必要ト見認ムル場合トアリ其場合決[illegible]如何[illegible]

答　實際ニ於テ一日モ公證人之レナキヿ能ハス之レナキヿニ於テハ人民ノ權利義務ニ損害ヲ與フルヲ以テ公証人死去失踪等ノ場合ニ於テ前條ノ記定ニ從ヒ裁判所ハ必ス近隣ノ公證人ニ其事務ヲ兼任セシムルヿハ明カナリト雖モ其兼任者ノ撰擇中ニ則チ兼任者ナキ場合ハリ其場合ニ於テ書類ニ封印ヲナサヽレハ散亂盜奪ノ憂ナシト云フ可ラス是レ本條ニ其取締リノ為メ書類ニ封印ヲ為スヿヲ定メタル所以ナリ其他必要ト見認ムル場合ハ豫メ云ヘ難シ是レハ畢竟始審裁判所ノ見認ムル所ニ任スノミ[illegible]

第五十九條　公證人免職辞職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任者ト立會書類ノ提要目錄

ヲ作リ共ニ署名捺印シテ授受スヘシ

死去失踪其他ノ事故ニ依リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會封印ヲ解キ提要目錄ヲ作リ受取ルヘシ書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會封印ヲ解キ提要目錄ヲ作リ受取ルヘシ後任者ハ提要目錄ヲ作リタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄始審裁判所ニ差出スヘシ

問　本條ノ要旨ハ如何ヤ

答　本條ノ要旨ハ公證人ノ免職辭職其他死去失踪等ノ場合ニ於テ書類ノ引渡ヲナスニ該リ遵守スヘキ法式ヲ記定スルモノナリ而シテ之ヲ三項ニ分チ第一ハ免職辭職轉職役場替ヘノ場合ヲ記定シ此ノ場合ニ於テハ前ノ公證人ト後ノ公證人若シクハ兼任者ハ共ニ書類引渡目錄ニ署名捺印シテ引渡スヘキコトヲ定メ第二項ハ死去失踪ノ場合ノミニ付テ之ヲ定ム此又場合ニ於テハ前任者ノ形ナキヲ以テ共ニ署名捺印スル能ハス依テ裁判所ノ官吏ト立會提要目錄ヲ作リ書類ヲ受取ルヘキコトヲ記定シ第三項ハ書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ前項ト同シク前任ノ公証人已ニ存セサルヲ以テ又裁判所ノ官吏ト立會提要目錄ヲ作リ書類ヲ受取ルヘキコトヲ定ム第四項ニ至テハ其提要目錄ヲ作リタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫ヲ裁判所ニ差出スヘキコトヲ記定シタルモノニテ別ニ疑團ノアルトコロニアラス

第六十條　公證人停職ノ場合ニ於テハ兼者任ハ第五十九條ノ手續ヲ

爲スニ及ホス書類ノ保存ハ停職者之レヲ擔當スヘシ

兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フヘシ

問　停職ノ場合ニ於テ兼任者ハ何故五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハサルカ第三項ニ定ムル如ク兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ職務ヲ行ハサルヲ得サルハ何ノ理由ナルヤ

答　停職トハ一時職務ヲ行フヲ停止シタルモノニシテ免職ニアラス故ニ停止ノ時間ヲ過クレハ其職ニ復スルヲ以テ停職者ハ停職中ト雖モ即チ公証人ナリ已ニ公證人ナレハ書類ノ紛乱セサル樣取纏メ又ハ提要目錄ヲ作ル等ノ手續ヲ爲スハ素ヨリ當然ナリ是レ本條ニ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハスト定ムル所以ナリ末項ノ兼任者ハ停職者ノ役場ニテ其職務ヲ行フヘシト定ムルハ則チ兼任者ノ正當ナル管轄ニアラスシテ一時ノ變則ナルカ故ナリ

第六十一條　兼任者引續ノ書類ヲ更ニ他ノ公証人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲナシ其始末書ヲ作リ受繼人ノ共ニ署名捺印スヘシ

受繼人ハ始末書ヲ作リタル日ヨリ一日以内ニ其寫一通ヲ作リ管轄始審裁判所ニ差出スヘシ

問　兼任者カ他ノ公証人ニ書類ヲ引渡ストハ如何ナル場合ナリヤ又始末書ヲ作受繼人云々トアリ其始末書受繼人トハ如何

答　兼任者カ他ノ公証人ニ書類ヲ引渡ストハ則チ前數條ニアル公證人死去失踪免職辞職轉職役場替等ノ場合ニ於テ後任者ノ命セラレタルトキニ其後任者ニ書類ノ引渡ヲナス場合ヲ云

ヲ始末書トハ引渡ヲナシタル始末書ニテ例ヘハ何月何日何所ニ於テ何何ノ書類定式ニ從ヒ何某ニ引渡セリト記スルカ如キ始末ノ概畧ナリ受繼人トハ書類ノ引繼ヲ受クルモノニテ概シテ云ヘハ後任ノ公證人ト云フカ如シ末項ノ受繼人ハ始末書ノ寫ヲ裁判所ニ差出スヘキ事ヲ定メタルモノニテ別ニ説明ヲ要セス

第六十二條　停職者復任スルトキハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者解任ヲ命スヘシ

問　本條ハ如何ナル趣意ナルヤ

答　本條ハ唯停職者復任セハ兼任者ノ無用ナルヲ以テ之レカ解任ヲ命スヘキヲ法律ヨリ裁判所ニ命令スルモノニシテ別ニ説明ヲ要セス

第六十三條　前任者ノ作リタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ附記スヘシ

本任者ノ作リタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記スヘシ

問　本條ハ如何ナル趣意ナリヤ

答　本條ハ後任者又ハ兼任者カ證書ノ寫ヲ渡ストキ其寫ニ記載シ置ク可キ事柄ヲ定ムルモノニテ要スルニ他日爭論ノ生シタルトキニ當リ其責メノ歸ス可キ公證人ノ誰レタルヲ知ルニ便ナラシムルニ在ルノミ則チ前任者ノ作リタル原本ニ依リ後任者正本謄本ヲ作リタル場合ニ其後任者タルヲノ記載アラハレハ其正本ハ前任者ノ作リタルモノナルヤ將タ後任者ノ作リタルモノナルヤ判然シ難ク故ニ其附記スヘキヲ記定

シタルモノニシテ周密ナル法律ト云フヘシ

第四章　手數料及ヒ旅費日當

問　手數料及ヒ旅費日當ハ總テ公證人ノ所得ナリヤ

答　然リ然レトモ其額ニ定限アリ以下數條ニ記スルトコロノ如シ

第六十四條　公證人ハ此章ニ定メタル定限ニ從ヒ囑託人ヨリ手數料及ヒ旅費日當ヲ受クルヿヲ得

問　手數料ヲ囑託人ヲシテ負擔セシムルハ何ノ理由ナルヤ

答　此ノ理由ヲ示ス甚タ難シトセス抑モ證書ヲ公正ト爲スト否トハ人民ノ自由ニ任シ法律ノ强ルトコロニアラス其之レヲ公正ト爲サントスルモノハ自己ノ契約ヲ確實ニシ利益ヲ得ルニ在ルモノナレハ其費用ヲ擔當スル固ヨリ當然ノ事ト云フヘシ旅費日當ニ於ケルモ亦手數料ト同一ノ理由ナレハ別

ニ說明ヲ要セス

第六十五條　手數料ハ原本一枚ニ付廿五錢正本及ヒ謄本ハ一枚ニ付十錢但一行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ壹枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

問　本條ハ何ノ爲メニ設クルヤ

答　本條ハ手數料ト其紙數字數行數ノ定限ヲ記シタルモノニシテ此ノ定限ヲ記シ置カサレハ公證人ニ於テ過當ノ手數料ヲ貪ツルノ弊アルヲ以テナリ

第六十六條　囑託人ノ求メニ依テ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後ヲ其原本ヲ作リタルトキハ草案ノ手數料ヲ別ニ請求スルヿヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手數料ノ半額ヲ受クルヿヲ得

問　本條ノ要旨ハ如何

答　本條ノ要旨ハ草案ノ手數料ヲ求ムルヲ得サルヿヲ記スルニ在リ然レ𪜈原本ヲ作ラサルトキハ其先キニ作リタル草案ノ手數料トシテ原本手數料ノ半額ヲ受クルヿヲ得ヘキヿヲ定ム此ノ理由ハ何人ト雖𪜈不當ノ利德ヲ得ルヿヲ得ストノ原則ニ出ツルモノナリ

第六十七條　公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ二十錢ヲ受クルヿヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滯留スルトキハ日當七十錢ヲ受クルヿヲ得

問　本條ノ趣旨ハ明カナレ𪜈災變ノ爲メ其場所又ハ途中ニ滯留スルトハ如何ナル場合ナルヤ

答　災變トハ一時ノ川支等ノ場合又ハ流行病ニ際シ檢疫ノ爲メ留置セラレタル等ノ場合ヲ云フ

第六十八條　兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手數料ハ總テ兼任者之ヲ受クヘシ

問　本任者アルニ兼任者手數料ヲ得ルハ何ノ理由ナルヤ

答　本任者アリト雖𪜈其事務ヲ扱フタルハ兼任者ニ在リ本則ノ手數料ハ其事務ヲ扱フタルモノニ屬シ事務ヲ扱ハサルモノニ屬セス是レ其理由ナリ

第六十九條　手數料ノ外證券印紙幷ニ界紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之レヲ受クルヿヲ得

問　手數料ノ外證券印紙云々トアリ之レニ依テ見レハ公證人ハ皆ナ證券印紙賣捌ヲ兼ヌルモノナリヤ如何

答　公証人ハ證券印紙賣捌ヲ必ス兼ヌルモノニアラス故ニ證券印紙ノ代價ヲ囑託人ヨリ受クルヿヲ得トアレヒ元來證券印稅規則ニ於テ免許ヲ受ケタルモノヽ外之ヲ賣ルヿヲ得サルモノナリ故ニ囑託人ニ對シ印紙ノ代價ヲ請求セハ取モ直サス印紙ヲ賣リタルモノニシテ證券印稅規則ニハ背反シタルモノニ似タリ故ニ此ノ證券印紙ノ代價ノ返償ヲ受クルト云フハ公證人ノ證券印紙賣捌ヲ兼ヌタル場合又一時有リ合セタルモノヲ無利ニテ立替タル場合ヲ云フモノト解釋セサレハ法律ニ抵觸スルノ法條タルヲ免レズ依テ此ノ一段ハ常ニ公證人ハ證券印紙ヲ貯ヘ必ス囑託人ノ求メニ應ス可キモノトハ解スヘカラス

第七十條　囑託人ノ求メアルトキハ手數料等ノ計算書ヲ與フヘシ

問　本文計算書ヲ與フルヿヲ拒ムヿヲ得ルヤ

答　本條ハ囑託人ノ求メアルトキニハ必ス計算書ヲ渡スヘキヿヲ命シタルモノナレハ公證人ハ之レヲ拒ムヿヲ得ス

第七十一條　手數料等ニ係リ爭ノ生シタルトキハ其金額ニ抱ハラス管轄始審裁判所ニ訴フヘシ

問　本條ニ手數料等トアルニ依リ旅費日當モ之レニ含有シ居ルヤ又其金額ニ抱ハラストハ如何ナルヿナリヤ

答　旅費日當モ素ヨリ然リ而ノ金額ニ抱ハラストハ一ノ裁判管轄ノ變例ヲ設クルモノナルカ故ナリ凡ソ裁判所ハ各管轄アリテ明治十四年第八十三号布告ニテ治安裁判所始審裁判所等ノ權限ヲ定メラレ治安裁判所ハ金額百圓以上ノ事件ヲ裁判スヿ可カラス又始審裁判所ハ百圓以上ノ金額ニ付終審ノ裁

判ト爲ス權利ナシト定メラル然レ𪜈本則ノ手數料旅費日當ニ付テノ訴訟ハ此ノ通常法ニ據ラス特例ヲ以テ始審裁判所ノ管轄ニ屬ストセシナリ然レ𪜈勸解ヲ請フハ本則ノ禁スルトコロニアラス依テ勸解ヲ願フヘキハ通常ノ事件ヲ如シ

第五章　憲罰

問　憲罰トハ如何

答　公證人ガ本則ニ背キテ職務ヲ行ヒ又ハ行ハサルトキノ罰ヲ云フナリ其憲罰ノ方法罰金ノ額ハ第七十三條ヨリ第七十六條マテニ記定ス依テ其本文ヲ記シタル後ヲ一個所ニ注解ヲ下タスヘシ

第七十二條　公證人此規則ヲ犯シタル時ハ管轄始審裁判所ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條マテニ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條　左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第三十條第一第二第三第四ノ規則ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第一項ニ違ヒ讀聞カセシコトヲ記入セス又ハ肩書ヲ爲サヽリシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時
第四十二條ニ違ヒタル時
第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時
第四十六條ニ違ヒタル時
第五十二條ニ違ヒタル時
第五十三條ニ違ヒタル時
第五十四條ニ違ヒタル時
第五十五條ニ違ヒタル時
第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時
第六十一條ニ違ヒタル時
第六十三條ニ違ヒタル時

第七十四條　左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條ニ違ヒタル時
第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時
第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時
第四十八條ノ第三項ニ違ヒタル時
第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條　左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時
第七條ニ違ヒタル時
第十條ノ第二項ニ違ヒタル時
第二十八條ニ違ヒタル時
第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時
第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條　左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第十五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時

第十七條ニ違ヒタル時

問　前數條ノ罰則ハ其犯則ヲ禁遏スルノ趣意ニアルハ素ヨリ判然ナレ𪜈最少コシ重クシタランニハ如何

答　佛國公証人規則ヲ見ルニ禁錮罰金ノ刑アリテ其本則ノ罰法トハ輕重大差アリト雖𪜈凡ソ懲罰ナルモノハ重キヲ以テ善ナリトセス本則ノ如キハ輕カラス重カラス適當ノ法ト云フヘシ

第七十七條　公証人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アル𪜈ハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ効力ナキモノトス

問　本條ハ如何ナル場合ニ適用スルモノナルヤ

答　本條ハ前數條ニ依テ憲罰ヲ受ケタル公証人カ其憲罰處分ヲ不服ナリトスル𪜈其處分ノ不當ヲ鳴ラシ管轄控訴院ヘ抗告スルヲ得可キヿヲ定メタルモノニシテ公證人ノ爲メ必要ノ法條ナリトス其抗告ノ法ハ刑事ノ控訴ト同一ナルヘシ獨リ

異ナルトコロノモノハ其始審ノ處分ヲ抗告ノ爲メ停止セサル
ト抗告ヲナスノ期限ナキヿ是レナリ其處分必スシモ相當ナ
リト看做スモノナレハ爰ニ抗告ヲ爲スヲ許スノ法條ヲ設ク
ルニ及ハサルカ如ク又是レヲ必スシモ相當ナリト看做ス可
ラサル以上ハ其處分ノ執行ヲ停止セサル可カラサルニ之レ
ヲ停止スルノ効ナシト定メラレタルハ別ニ相當ノ理由アル
ヘシト雖モ然レモ停職ノ如キハ刑事ノ体刑ト同シク前處分
ノ不當ニ歸スルモ停職セラレタル時間ハ回復スルヿ能ハサ
ルヘシ故ニ本條末項ハ未タ正解ヲ得ス

第七十八條　公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其
職ヲ免ス

第七十條第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又身体保証

金ヲ差入レサルトキ亦前項ニ同シ

問　本條ハ如何ナルヿノ制限ヲ記定シタルモノナルヤ

答　本條ハ司法大臣ハ雖モ妄リニ免職ヲ爲ス能ハサルヿヲ定メ
タルモノニテ則チ停職三回ト之レヲ限リアレハ二回ノ停職
ノミニテハ免職ヲナス能ハス
又之レヲ受クルノ義務ナシ然ルニ末項ニ於テハ直ニ免職ス
ヘキヿヲ定ム如何トナレハ身体保證金ヲ差入レス又ハ第二
十條第一第二第三ノ條件ハ公證人タルノ資格ヲ失フモノナ
レハナリ

第七十九條　公証人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメ
タルトキハ之ヲ賠償スヘシ

問　本條ハ如何ナル法意ナリヤ

答　本條ノ法意ハ佛國民法千三百八十二條ノ原則即チ何事ニ依ラス人ニ損害ヲ加ヘタルモノハ之レヲ償フヘシトノ法理ニ依リタルモノトス但其要償ニ付テハ故意又ハ過失アルヲ要ス

司法省令甲第二號

今般法律第二號ヲ以テ公證人規則制定相成候ニ付施行條例左ノ通之ヲ定ム

明治十九年八月三十日

司法大臣伯爵山田顯義

公証人規則施行條例

第一條　公證人ハ一受持區ニ五名以下ヲ置クモノトス

若シ公證人ノ員數不足スルトキハ受持區ニ依リテハ全ク之ヲ置カサルヿアルヘシ

第二條　公證人ハ其受持區內ニ於テ住居セントト欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ始審裁判所ニ差出シ控訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請フ可シ

始審裁判所長及控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達ス可シ

司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居ヲ認可セサルトキハ直チニ其住居スヘキ町村ヲ指定ス

第三條　公証人既ニ住居ノ認可ヲ受タル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セントスルトキモ亦前條ノ手續ニ從フ可シ

第四條　公證人ノ役場ニハ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲ク可シ

役場ニハ成可ク倉庫又ハ堅牢ナル建物ヲ以テ書類保存ノ所ト爲スヲ要ス類書ハ常ニ書箱ニ納メ非常持退ノ準備ヲ爲シ

置ク可シ

第五條　公證人規則ニ從ヒ試驗ヲ受ケント欲スル者ハ試驗願書ニ履歷書ヲ添ヘ試驗期日ノ告示アリタルヨリ試驗期日一箇月前マテニ試驗ヲ行フ控訴院若クハ始審裁判所ニ差出スヘシ

試驗願書及ヒ履歷書ニハ本籍區長若クハ戶長ノ奧書ヲ受クヘシ

第六條　試驗ハ各所同時ニ之ヲ行フモノトス

第七條　試驗委員ハ筆記試驗ノ答按ヲ調査シ其合格不合格ヲ決定シタル後口述試驗ヲ行フ可シ

筆記試驗ニ合格セサル者ニ付テハ口述試驗ヲ行ハス

第八條　試驗問題答案ノ適否ハ試驗委員ノ判斷ニ決スルモノトス

試驗ノ結果ハ筆記口述二種ノ總点ニ依リ之ヲ定ム可シ

第九條　試驗委員ハ口述試驗ノ大畧及試驗全体ノ結果ヲ記錄ニ記載スヘシ

第十條　試驗ニ及第シタル者ニハ試驗委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス可シ

試驗ヲ行フタル控訴院若クハ始審裁判所ハ試驗及第人名簿ヲ製シ之ニ及第者ノ住所族籍氏名年齡及第ノ年月日ヲ登記ス可シ

第十一條　試驗委員ハ試驗ニ關スル一切ノ書類ヲ其試驗ヲ行フタル始審裁判所若クハ控訴院ノ長ニ差出スヘシ

始審裁判所ニ於テ試驗ヲ行フタルトキハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書類ニ意見ヲ附シ控訴院ニ送致シ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

第十二條　公証人タラント欲スル者ハ其願書ニ試驗及第證書官記學位記卒業證書又ハ免許狀ノ寫及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保證スル證書ヲ添ヘ之ヲ差出ス可シ

第十三條　公證人願ヲ受タル始審裁判所ノ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長モ亦意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十四條　公證人願書ヲ直ニ控訴院ニ差出タルトキハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條　公證人願書ニハ其職務ヲ行ハントスル地ヲ明記ス可シ

第十六條　司法大臣公證人ヲ任スルトキハ辭令書ヲ其公證人ノ職務ヲ行フ可キ地ノ管轄控訴院及始審裁判所ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及始審裁判所ニ於テハ公證人名簿ヲ備置キ公證人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齡及任地ヲ記錄スヘシ

第十七條　公證人ニ任セラレタル者ハ身元保證金トノ現金又ハ相當ノ價格アル公債證書若クハ日本銀行株券ヲ管轄始審裁判所ニ納ムヘシ

第十八條　公證人ノ納ムヘキ身元保證金ノ額ハ左ノ如シ

東京及大坂　金五百圓

他ノ地方ニ於テハ

人口二十万以上アル受持區　金四百圓
人口二十万未滿十万以上アル受持區　金三百圓
人口十万未滿アル受持區　金二百圓
前項ノ金額ハ人口ニ增減アリト雖モ既ニ完納シタルモノハ之ヲ增減セス

第十九條　公證人ハ身元保證金ヲ管轄始審裁判ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行フコトヲ得ス
公證人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以內ニ身元保證金ヲ完納セサルトキハ公證人規則第七十八條第二項ニ依リ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條　公證人ノ身元保證金ハ公証人規則第五章ニ定メアル過料其他賠償ノ抵保ニ充ツモノトス

第二十一條　公過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保証金ノ全部又ハ一部第一項減消シタルトキハ管轄始審裁判所長ハ速ニ保證金ヲ補充スヘキ旨ヲ公證人ニ命スヘシ
公證人保證金ヲ補充スルニ當テ始審裁判所長ハ假ニ職務執行ヲ停止ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申スヘシ
公證人保證金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサルトキハ始審裁判所長ハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フヘシ

第二十二條　公證人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保証金ニ不足ヲ生スルトキハ之ヲ補充セシメ若シ餘分アルトキハ之ヲ還付スヘシ
第二十三條　[illegible]

第二十三條　公証人其職務ヲ罷タルトキハ身元保証金ヲ還附スヘシ

第二十四條　公証人死去失踪又ハ停職ノ処分ヲ受ケタルトキハ管轄始審裁判所ハ控訴院ヲ經由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス

第二十五條　公証人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル時ハ始審裁判所及控訴院ハ其旨ヲ公證人名簿ニ記入ス可シ

第二十六條　公證人規則ニ定メアル懲罰處分ハ民事裁判所之ヲ管轄ス刑法及治罪法ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　公證人試驗願書式履歴書式及公証人願書式ハ左ノ如シ

第一公證人試驗願書式

第二十一條　公證人試驗願料紙美濃紙

第三公証人願番戸主嗣子又ハ族籍二三男兄弟ノ別

氏名又ハ名乗

年齢

私儀公證人試驗相受度此段奉願候也

年月日

現住所

氏名印

某控訴院長誰殿又ハ某始審裁判所長誰殿

前書之通族籍年齢等相違無之候也

年　月　日

本籍

區長又ハ戸長印

第二履歴書式

履歴書料紙美濃紙

第二號書式

年　月　日

族籍

氏名　印

年齡

一何年何月ヨリ何年何月迄府縣何某ニ就キ又ハ公私何學校何塾ニ於テ何學修業若シクハ其他何ノ職業社官進退賞罰等一何年何月何々ニ關スル一切ノ件ハ某府縣何郡何村戸籍吏ニ對シ一公證人規則第二十條等ノ各項ニ相觸候儀一切無之候

年　月　日

氏名　印

前書之通相違無之候也

本籍

區長又ハ戸長印

第三公證人願書式

公證人願料紙美濃紙

族籍　戸主嗣子又ハ二三男兄弟ノ別

氏名

年齡

私儀何府縣何國某治安裁判所管下公證人受持區ニ於テ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被成下試驗及第證書(官記學位卒業證書免許狀)寫及品行保證書相添此段奉願候也

現住所

氏名　印

年　月　日

司法大臣誰殿

又ハ

私儀府縣何國某治安裁判所管下及ヒ何府縣何國某治安裁判所(某始審裁判

所管下又ハ某控訴院管下)ノ内何レノ公證人受持區ニ於テナリトモ御命令ニ從ヒ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被成下度試驗及第證書(官記學位記卒業證書免許狀)ノ寫及ヒ品行保證書相添此段奉願候也

前後ノ式ハ

前式ニ同シ

右ハ司法省令ニ掲クル書式ナリ然レ𪜈品行保證ノ書式ハ同令ニ掲ケタ故ニ各自ノ隨意ニ書シテ可ナルモノトス

日本公證人規則註解畢

明治十九年八月一十日出版
同年同月二十一日版權免許

定價金廿錢

編著兼出版人　河原田新　東京府芝區柴井町十六番地寄留愛媛縣平民

發兌元　きくまや　東京府芝區柴井町十六番地

賣捌所　須原鉄二　東京日本橋西河岸

丸善書店　同日本橋通三丁目

阪本金次郎　銀坐四丁目四番地